



2026年3月25日

神のお告げ

## マリアニスト家族の保護の祝日

### マリア、希望の道

私たちは希望と喜びに満ちた聖年を過ごしてきました。それは私たち一人ひとりにとって、恵みと開放、そして刷新の期間でした。この通常聖年は、自分の信仰との関係を取り戻すために、信者たちを霊的な回心の旅へと招くものでした。「希望の巡礼者」、その歩みは、変化する世界で意味を探して希望の担い手となるために続いています。この中で、私たちは創立者である福者シャミナード神父の列福 25 周年を記念しましたが、これはこの偉大な神の僕の遺産を祝い、師の模範にならって私たちの希望を強める機会となりました。

「希望の巡礼者」、私たちはその巡礼者であり、今も巡礼者であり続けます。私たちは復活されたキリストによってもたらされた希望を証しするよう召されています。聖年は終わりましたが、希望は欺きません。歩んできた道は続きます。私たちの保護の祝日は、マリアが「希望の花を集める」私たちを助けてくれるよう、私たちマリアニスト家族がマリアを受け入れる機会です。私たちのこの保護の祝日を導くテーマは次の通りです：「マリア、希望の道」。

例年通り、マリアニスト家族は、感謝を捧げ与える喜びを祝うために、その召命を記念します。このような主の寛大さを心に留めるため、「希望のもっとも偉大なあかし人」(*Spes non confundit*, N° 24)であるマリアの足跡をたどりましょう。マグニフィカトが私たちの心に響き渡りますように。神が私たち一人ひとりの人生や家族においてなされた驚くべきことに対して、喜びと感謝をあらわしましょう。次のマリアの賛歌を彼女と共に歌いましょう。彼女自身の満ち溢れる、主体的な希望のしるしを私たちに刻みますように。

### マリアの賛歌(ルカ 1・47-55)

「わたしの魂は主をあがめ、  
わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。

身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。  
今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう、

力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。  
その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。

主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、  
権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、  
飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。

その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません、  
わたしたちの先祖におっしゃったとおり、  
アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

## マリアの「はい」、希望の小道

イエスの母マリアは、すべてのキリスト者にとって召命の模範です。神のお告げで表明された彼女の神への「はい」は、あらゆる時代の信者を鼓舞し導く信仰、従順、信頼の模範です。信仰は守るべき宝ではなく、分かち合うべき良き知らせです。イエスの母マリアは、全世界にとって希望の象徴です。神のお告げで表明された彼女の「はい」は、全人類に希望の小道を開きました。

「六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった」（ルカ 1・26-27）。神のお告げは呼びかけです。神は常にイニシアティブを取られます。神は、その現存を直接人間の領域にもたらすことによって、人間として同じ道を歩まれます。

マリアは神のみ言葉を受け、それを世界に届けます。彼女のように、私たちもこのみ言葉を歓迎し、伝えるよう招かれています。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる」（ルカ 1・30-33）。

受肉を通して実現された神の救いの計画に対する彼女の「はい」は、彼女の全人生を神に明け渡すことです。それは神のみ旨に対する全幅の信頼と全面的に応える用意があることを示す「はい」です。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ 1・38）。

神のお告げに対するマリアの「はい」は、神が救いの歴史に介入されることを示しており、希望のメッセージです。神は愛であり、この愛は召命として私たちに呼びかけられています。救い主イエスが世界に希望と光をもたらしてくださるように、神は私たちの「はい」を待っておられます。主はマリアの「はい」と共に民を訪ねてくださるのです！ 主の小道は愛です。それはマリアが示した積極的な応答によって辿られる小道です。それは天と地をつなぐ小道です：「その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」(ルカ 1・32-33)。受肉は希望の具現化であり、信じられないほどの愛の行為です。

マリアの「はい」は、救いの歴史に新たな時代を切り開き、新たな創造をもたらします；それは私たちが環境保護への献身を通して回復したいと願うものです。希望の道としての「新しいエヴァ」であるマリアは、私たちが神との和解のために働くよう呼びかけています。

### 神のお告げ：希望の始まり！

マリアの「はい」は受肉の始まりを示します。マリアはすべてを理解していたわけではありません。「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を**知りませんのに**」(ルカ 1・34)。彼女は信仰をもって「はい」と答えました。今日、私たちに求められているのはこの信仰です。ひとたび蒔かれた種として神のみ言葉をとらえる信仰は、然るべき時に実を結びます。神のお告げは、イニシアティブを取られるのは神ご自身であることを私たちに思い起こさせてくれます。

**「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」**(ルカ 1・35)。

マリアの「フィアト」は、質素な「彼女の」生活の家を「至聖なるイエスの幕屋」にふさわしい神の家へと変容させます；ロレートの連祷が「尊い幕屋！」と名付けているのは正当な理由のあることです。

神はイスラエルの民の中に受肉することを選びました。今日、マリアニスト家族はマリアと共に希望をもって歩みたいと願っています。洗礼を通して、私たちも希望の証人となるよう召されています。今こそ、私たちの希望の巡礼が始まります。マリアの家族としての私たちの応えは、神のお告げのテキストがもたらす光の中にその応えを見出します。私たちは宣教の誓約を新たにしよう招かれています。世界は希望、意味、救い、回復、尊厳、自由を渴望しています。キリストはこの希望です。

私たちの人生、言葉、行いを通して、私たちはこの世界と人類の歴史における神の生きいきとした臨在を証しするよう呼びかけられています。「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい」(1ペトロ3・15)。私たちの家族は多様性に富み、与えるものがたくさんあります。なぜなら、この旅に同伴してくださり、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」、といつも私たちに言われる聖母マリアから多くを受け取っているからです。彼女は、私たちが神のみ言葉を歓迎し、そのみ言葉によって自分自身が変容されるようにし、そして信頼、謙遜、単純さをもってこのみ言葉を世界にもたらすよう教えています。「神にできないことは何一つない。」

天使へのマリアの応答は、すべての人にとって希望の小道です。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」(ルカ1・38)。彼女の「はい」は希望の「はい」であり、聖霊に開かれていることです。注意深く耳を傾け、聴いたことを快く受け入れる用意ができていることを示す「はい」です。マリアの「はい」は彼女を信頼と従順の小道に導きます。それは私たちを同じ道へと導きますが、それは彼女の「はい」が私たち自身の「はい」を強め、より信頼できるものとしてくれることによってなのです。

「純潔の源であるおとめマリアよ、あなたと共に希望は再び見出される」と歌われるこのリフレインは、神のお告げの祝日のメッセージの本質を要約しています。マリアのように私たちが神に「はい」と言うとき、私たちの人生、家族、教会、世界、そして宣教において、私たちは希望の扉を開きます。この希望の扉を開くことは素晴らしい使命ではないでしょうか？ そのためには、自分たちの責任を自覚する必要があります。マリアの「はい」は、私たち自身の神への応答のモデルです。マリアがそうしたように、私たちが神に「はい」と言うとき、私たちは彼女の信仰と従順の小道に加わることとなります。彼女は神のみ言葉を信じているので、「はい」と答えました。彼女は「はい」と答えます、なぜなら彼女は神を愛しているからです。彼女の「はい」は神の子を私たちの中に降誕させる「はい」です。

### 能動的行動の中に生まれる希望

マリアの「はい」は彼女を他者へと向かわせる原動力です。それはその人自身にとどまるのではなく、喜びをもって分かち合われる使命です。それは喜び、つまり宣べ伝える良い便り、に満ちた使命です。要するに、与えられる喜びです。能動的に行動する希望に満ちた女性であるマリアは、急いでいとこの家へ向かいました。(ルカ1・39-45)

彼女が抱く希望は、世の人々に与えられねばなりません。天使の訪問の後、マリアに受肉された神の子は、彼女だけのものではありません。彼女は「ユダの山里」へと旅立ちます。希望は私たちが歩き出し、山里を昇り、他者にたどり着くよ

うにしてくれます。希望は翼を生えさせ、熱意を芽生えさせます。エリサベトはこの喜びを分かち合っています。「エリザベトは、聖霊に満たされて、マリアの神母性を認め、マリアを「私の主のお母さま」(ルカ 1・43)と呼び、宣言した最初の人でした。」

「マリアの熱意は、私たちの司牧的奉仕における慈善活動の緊急性に応えるよう私たちに呼びかけます。」「私たちの献身がマリアの母としての愛をこの世に広める」ために、マリアニスト家族として、私たち自身が私たちの母の喜びと熱意にあえて挑戦してみましょう。

マリアの希望は、行動し、動き、他者に寄り添うよう彼女を駆り立てるもので、能動的に希望を創り出す生き方です。マリアニスト家族として、私たちの希望は、マリアの希望に似せて、どの程度、他者、若者、貧しい人々、声なき人々、難民たち・・・へと私たちを向かわせているのでしょうか？

マリアの「はい」は、イエスを迎え入れ、彼を神殿で捧げる「はい」です。(ルカ 2・22-38)。希望の炎を燃やし続けるために、私たちはキリストを迎え入れ、世の人々にキリストを示すよう召されています。

聖霊の働きを信頼して、「ここに私があります」、常に呼びかけに応える用意があるというしるしによって、神は歴史に介入されました。今日においても、神は、それぞれ「ここに私があります」と言ってきた人々、そしてこれからも言い続ける人々の人生において歴史を刻まれます。

## マリアニストの旅の途上で、マリアとともに、希望の源となりましょう

源となることは、何か美しく、良い、平和なものを自分自身の中で芽生えさせることであり、私たちを生かしているものを他者と分かち合うことです。マリアは私たちにとって希望の源であり、ですから、私たちはマリアを「知らせ、愛させ、仕えさせる」ことを使命としているのです。

彼女は自分の中に何も隠しておかない人です、彼女はいつもそれを自分の息子イエスにあらわします。マリアニストとして、これが私たちの使命です:「ぶどう酒がなくなりました」。その「はい」によってマリアは、カナの婚宴におけるように、私たちが喜びの担い手となるよう招いています。希望の源であることは、主との個人的な関係、思いやり、癒し、現存という新しいぶどう酒、良いぶどう酒に向けて「水がめ」を満たすこと、神のみ言葉に耳を傾け、神の呼びかけに積極的に応えることです。家族として、神への信頼と愛を降り注ぐマリアに依り頼みましょう！そして彼女と共に、私たちが暮らす環境から来る呼びかけに応える準備のできた、力強い男女となりましょう！これらの呼びかけは、平和のために働き、被造界を大切にすること...になるはずです。マリアが私たちに示す美しい希望の小道は、喜びの小道であり、慈悲深いまなざし、言葉、微笑み、寄り添い、差し伸べられた手、そして耳を傾けて聞く小道です。

「マリアの希望」は、神の約束への彼女の揺るぎない信仰の実りです。他者の希望の源となる私たちの能力は、主のみ言葉の成就を信じる私たち自身の信仰の強さに直接左右されます。それは積極的な信仰であり、私たちが他者を愛するよう、また他者の尊厳を回復するよう促します。

マリアが私たちの「はい」を支え、私たちを「聖霊の働きに素直な者」、私たちの人生を通して希望が実を結ぶことができる者としてくださいますように。私たちの「はい」が枯れることなく湧き続ける泉となりますように。

希望の源であることはまた、マリアの心構えに倣おうと努めることでもあります。

それは、神にできないことは何一つないと確信して、神に信頼し、神に身を委ねるかどうかが、という問題です。神は自由を強要されるのではなく、誰もがその人自身の「ここに私があります」と言えるように、自由へと教育なさるのです。

神の“時”、そのリズムに入ることを受け入れること。深く沈潜すること。希望を信じるには「はい」が必要ですが、この「はい」は単なる時間の経過ではなく、神の“時”、つまり時宜にかなった時、恵みの時なのです。「あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。」

主が、ご自分の祝福された母を通して、私たちの霊的な家族の中に多くの召命を育ててくださいますように。

## マリアニスト家族各枝のための祈りの意向

1. 『マリアの希望』は、神の約束への彼女の揺るぎない信仰の実りです。希望を必要としているこの世界にあって、キリスト教の希望を信じること、とりわけ、試練の渦中にあるすべての人々にとって希望のしるし、希望の担い手となることが可能であることを、信徒マリアニスト共同体がその信仰を通して証しすることができますように、▲主よ、私たちの願いを聞き入れてください。
2. マリアの希望は行動し、動き、他者に寄り添うよう彼女を駆り立てるものであり、積極的に希望を創り出す生き方です。マリア会が前回の総会以来、強い決意をもって取り組んできた「若者との、また若者のための司牧的配慮」が、教会と私たちのカリスマによる家族のために、奉獻生活、結婚生活、および司祭生活への多くの召命を呼び覚ましますよう、若者たちのために祈りましょう。▲主よ、私たちの願いを聞き入れてください。

3. 私たちは、希望の炎を灯し続けるために、キリストを迎え入れ、世の人々にキリストを示すよう召されています。  
教会の呼びかけに応えるために、いのちの奉仕においてマリアの宣教者になりたいと願う汚れなきマリア修道会のために祈りましょう。汚れなきマリア修道会がその日々の生活において、マリアを知らせ、愛させ、仕えさせる使命を持って、キリストを証しすることができますように。▲主よ、私たちの願いを聞き入れてください。
4. マリアと同じ道をたどる希望の担い手、あるいは希望の種まき人、これはマリアニスト家族全体の保護の祝日である本日、私たちに向けられた招きです。アリアンス・マリアルの会員が、社会生活のあらゆる面において、純潔で、貧しく、従順なキリストの増え続ける現存となりますように。▲主よ、私たちの願いを聞き入れてください。

### 私たちマリアニスト家族への召命を求める祈り

主よ、あなたとの友情、聖性、そして、いのちへのあなたの呼びかけに感謝します。

私たちを「他者の弱さを自らのものとし、表面化しつつある排除する社会を許さず、かえって彼らの隣人となる\*」者としてください。

私たちが必要としている司祭、すなわち、あなたのみ言葉、および秘跡におけるあなたの臨在の証人、福音について、またその兄弟姉妹への奉仕に情熱を燃やす司祭を、この世界にお与えてください。

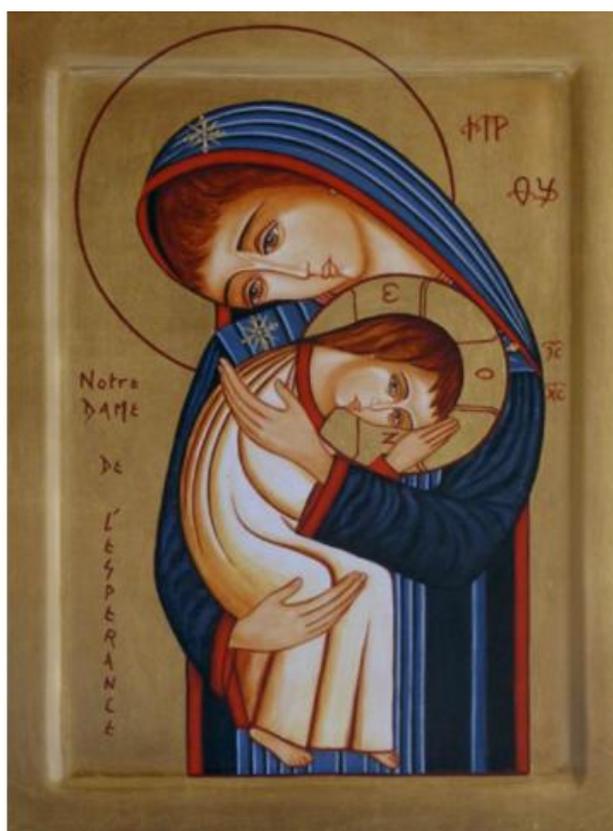
祈りと献身のうちに、愛における社会の変容の当事者となることができる、男女の奉獻者（男女修道者や奉獻された信徒など）を世界にお与えてください。

あなたの現存に信頼し、献身を強められた信徒共同体の愛の証人を私たちにお与えください。信仰に満ちた、一致した、宣教的なマリアニスト家族を築く恵みを、また他者の必要に対して細やかな配慮のできるマリアニスト家族を築く恵みを、すべての枝にお与えください。

私たち一人ひとりがあなたの聖性への招きを最大限に生き、そして福音の喜びを世界の中心にまで伝えることができるよう、恵みをお与えください、アーメン。

\*（『兄弟の皆さん』、N° 67）

希望の聖母よ、私たちのためにお祈りください



希望の聖母のイコン 参考 IC\_9137 or G9137

作者 ヨランド・デヌラン (21世紀)